資料１

第8回　気仙沼市震災復興市民委員会　会議要旨

開催日 ： 平成 23 年 8 月 17 日（水） 14:00～18:10
場　所 ： 気仙沼市地域交流センター　大ホール

１. 市土基盤

（１）かさ上げについて

- 産業復興のためスピード感を重視し、大潮に対応できる最低限の安全性を確保する高さにしてはどうか。台風、しけから陸地を守る堤防や護岸はしっかり整備すべき。

（２）道路について

- 道路の新設により交通事故が起きやすい交差点が増加し、災害時に避難の妨げになる懸念がある。
- 三陸縦貫自動車道は津波が襲来した際の避難先となるように配慮すべき。
- 一関までの所要時間の目標を 40 分とし道路整備を計画してはどうか。

（３）JR について

- 市役所付近に新駅を置き、鹿折から三陸縦貫自動車道と同じルートで南下するのはどうか。
- 市内の産業集積地や避難路を線路が分断しないよう配慮が必要。
- 通勤・通学圏が広がるよう仙台・気仙沼駅間を１時間半で往来できるルートを考えてはどうか。

（４）水の確保について

- 太陽光パネルを利用し、散水用、飲料用に井戸水をくみ上げる取組が始まっている。
- 海水の淡水化は専用設備とそれを車載できる車があれば導入可能。
- 小川等の水は市内で安定的に確保可能。小川等の情報を調査し、防災マップに記載してはどうか。

（５）住宅再建について

- 高齢者の孤立防止の観点から家族が一緒に暮らせる工夫が必要。多世代が同居する建物の新築への公的支援があってもよいのではないか。
- 住宅再建は住民ニーズにあったパターン別の施策が必要。まずはニーズの把握から始めるべき。

（６）津波による川の氾濫について

- 今回も津波が遡上して大量の水が溢れたことから何らかの対策が必要。
- 河底を浚渫するなどして、津波の威力を徐々に弱めるなどの方策は採れないか。

２. 産業再生と雇用

（１）観光について

- 造船所の作業工程や大漁旗の製作過程の見学などを観光メニュー化するとともに、地元料理の伝承等も含めたパンフレットの作製を行ってはどうか。
- 平泉のほか栗原市や藤沢町等とも連携してはどうか。
- 被災地観光で頑張る人の姿を見てもらうこと、気仙沼のファンになってもらうことが重要。
- 体験メニューへの支出は苦にならないが、家族の人数が多いと宿泊費がネック。安く泊まれる方法があると出かけやすい。
- 業界団体は資金力がないと体制等の強化は難しい。団体の資金確保に工夫が必要。

（２）商店街の復興について

- 商店街がショッピングモールになるなどの工夫が必要。もともと専門性が高いので、これを契機に

商店街の良さを突き詰めてはどうか。

- 三陸縦貫自動車道の近くに地元ショッピングモールを設置し、看板が道路から見えるとよい。
- 車を利用しない人も使えるように、駅の近くにも商店街がほしい。
- 魚市場付近には食に特化した商店街があるとよい。全市的な視点で商店街を整備することも大切。
- 魚市場と青果市場を近くに設置し、全ての食材が揃えば観光客や市民にとって魅力的。
- 個人商店の力が重要。挑戦する商店主が融資を受けやすい方策が必要。
- 観光客の夜の過ごし方として海が見えるバーがあるとよい。若者が集うようになる。

3. 防災体制について

- 夜間の津波への対策も必要。
- 防災行政無線の難聴地域に、個人用の受信装置の設置等を検討すべき。
- 消防や警察の意見を聞いてみてはどうか。→次回会議への出席を依頼することとした。

4. 環境エネルギー

（１）環境の復元について

- 自然でしか修復できないものもある一方、人の意志（力）がないと復元できないものもある。
- 植樹のための自然植生の木の種を拾う体験などもあるとよい。

（２）資源の利活用について

- 水資源の重要さを認識し、ろ過設備などを市内に整備してはどうか。
- 「原子力は使いません」というスローエネルギー宣言をしてはどうか。今後の日本の動向を世界が注目している。宣言をすることで、本市への支援が増えるのではないか。

5. 地域ケアについて

- 被災した１人暮らしの方のための下宿の整備も考えてはどうか。

6. 地域コミュニティについて

- 災害時の避難誘導にテレビ電話が活用されており、災害時のＩＴを活用法のひとつだと思った。

7. 緊急産業復旧プロジェクト案について

- プロジェクトの推進は誰が中心となるのか。事業者がばらばらに動いているのが心配である。

以　上